

## 蜷川のみなさんへ（参加者の声）



三回目と言うこともあり、前よりも皆さんと打ち解けられたかなと自負している。それと同時に前回夏のセミナーで蜷川の良さを知っている学生にもう一度来てもらって、更にまた来てもらって私のように蜷川中毒にかけさせたいと思った。さらに今回も参加して思ったのは、蜷川をPRできる方法がないか考えている。

地域の方のお話を直接聞くことによって、地域を盛り上げたいと言う熱い思いや、それに反する地域の実情、地方の問題を実感することができよい経験になりました。



ケーキをつくるお手伝いに行くと結構軽めに考えていましたが、行ってみるとかなり充実した一日になりました。学びとれることもたくさんありました。

以前黒板に描いた落書きをそのままにしてくれていたことに感激です。優しいな。

蜷川の金子さん達がとてもあたたかく、部活のツアーなどでぜひ行ってみたいと思いました。モーニングの時も感じましたが、チャンスがあれば何度でも行ってみたいところだと思います。



蜷川におじゃまるするといつもほっとします。広子さん達の手際の良さに驚きました。料理をする姿が格好良かったです。また「新しいことをする力が欲しい」と広さんが仰っていたのを聞いて、私も力になりたいと感じました。

蜷川のダブル金子さん達の元気さに圧倒されつつ、自分にできることは何なのか、自問自答しつつお手伝い出来たと思います。めっちゃ楽しかったです。また行きたいです。



## 黒潮町・蜷川 ケーキ作り編

### 蜷川のために出来ることを考える

2013年1月18日（金）、黒潮町蜷川「であいの里蜷川」で女子学生7人がケーキ作りに挑戦しました。

ケーキは1月20日に黒潮町で開催される「はちきんプロジェクト～女性を中心とした地域づくりフォーラム～」に同グループが出品するもので、参加予定者分50個を「であいの里蜷川」メンバーのみなさんと一緒に作りました。

### 世間話は「考えること」のきっかけになる

学生の多くは蜷川訪問3回目。「であいの里蜷川」の金子さん達とも顔見知りです。到着後から和気あいあいとしたムードで作業が進みました。作業中はお菓子づくりのポイントから金子さん達が



蜷川で試してみたいことまで様々な会話が飛び交っていました。実はこの何気ない世間話が重要で学生の「考える」きっかけになっています。例えば、「地域には新しいことをやってみようとする人の力が必要」と感じたり、「お料理はみんなが協力して出来上がっているということがわかった」など。



### 「みんなをもっと蜷川中毒にしたい！」

残念ながら出品できない不揃いのケーキは作業終了後全員で試食。

ふわふわのケーキを頬張りながら、学生は日頃どんな勉強をしているか、金子さん達は「つがに」の旬や飼い方などの話題に花が咲きました。

このような交流を通じて、参加した学生たちは次のような感想を寄せてくれました。

